

市長と話そう会(武雄市文化連盟)

日 時：令和7年7月1日(木)

19:00～20:30

場 所：武雄市文化会館

1階ラウンジ

参加者：武雄市文化連盟

約70名



市民のみなさまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第39回は、「武雄市文化連盟」のみなさまと、武雄市文化会館大ホールのことについて幅広く意見交換しました。以下抜粋して掲載します。

○「武雄市文化会館大ホール」について

(参加者)

- ・武雄市文化会館は「西九州の伝統」というキャッチフレーズのもとで築50年以上の歴史を持ち、市民や団体活動の発表・育成の場として重要な役割を果たしてきており、地域の誇りとなっていた。
- ・大ホールはNHKホールに匹敵する施設を目指して設計され、舞台転換やオーケストラピットなど演奏・演技に最適な設備を備えている。世界的ピアニストによる演奏会や、オーケストラピットを活用したコンサートなど、多くの思い出深いイベントが開催された。
- ・そのような中で、市民が利用できる文化会館を目指し、文化連盟を組織し、音楽祭などを開催してきており、子どもたちが専門家や音楽家を目指して演奏会を開き、練習できる場として機能してきた。また、「感性を磨く」「素晴らしい人を育てる」場所として、子どもたちの成長や夢の実現に寄与してきた。
- ・現在はそのような機会がほとんどなくなり、寂しさを感じている。そういった中で大ホールがなくなることは、子どもたちの夢や文化育成の場が失われることになる。大ホールは絶対になくしてはならない必要な施設である。

(市長)

- ・文化会館は「見る文化」と「つくる文化」の両方を担う施設であり、特に「つくる文化」は今後も大切にしていこうと考えている。また、発表する人も聞く人も文化の担い手であり、これからも文化活動の裾野を広げていきたい。
- ・令和三年度に「文化のまちづくり構想」を策定した。市民が気軽に文化に触れ、楽しみ、交流し、文化に関わる人を増やすことを基本理念としている。今後の文化政策は、ハード（施設）とソフト（人材・活動）の両面からの取り組みが必要と考えている。今日はハードの内容で意見をいただきたい。なお、ソフトのことについては別途機会を設けたい。是非一緒に考えていきたい。

- ・当初は、大ホールについては長寿命化・耐震補強工事を行う方針だったが、物価高騰の影響により、雨漏り等の最低限の修繕だけでも事業費が20億円から30億円へ大幅に高騰した。維持費の12億円を含めると42億円かかることが分かった。また、いろんなご意見があると思うが、稼働率が現状で3割くらいである。そのようなことを踏まえ、令和6年12月議会で「一旦立ち止まって考える」と発言した。また、あわせてこれからの文化をどうしていくかについて幅広く意見を聞いたうえで方向性を決めていきたいと発言した。
- ・聴取が不十分だったということは直接たくさん聞いているが、文化課がさまざまな団体に意見を伺った。その中で、文化に関わる人と今関わっていない人、幅広く市民の皆さんの意見を聞いた中で、二つの市民全体としての民意があると感じた。一つは大ホールは大事な場所であるから、ぜひこれは残してほしい。そして発表の場として必要だという強い意見。もう一方で、将来に向けて子供たちに負担を残してはいけないというような意見もあった。この二つの意見を踏まえ、熟慮に熟慮を重ね、一つの方向性として大ホールは解体するけれども文化の灯は止めないという方向性を出した。
- ・具体的には、例えばケーブルワンスポーツパークや北方文化ホールの使い勝手や機能を良くしていくことが考えられる。また、あわせて大ホールの跡地のことについて考えていかないといけないが現時点では全くの未定。皆さんの意見をいただければ。

(参加者)

- ・知り合いの設計の専門家から、音響設備などは設計段階からでないと後付けでは無理だと言われた。当然市側でも専門家に尋ねた上でのことだと思うが、こういった方に意見を聞かれたのかが気になる。
- ・機能を残すにはどういう方法があるかというのをぜひ一緒に考えさせていただきたい。
- ・議会でもさまざまな発言をされたが、それを踏まえて市としての対応が今後どうなっていくのかを聞きたい。

(市長)

- ・決定していない中での一例として、ケーブルワンスポーツパークや北方文化ホールのことを言った。文化会館大ホールというのはとても大きなホールでいろんな機能を担っていたと思う。成人式や消防の出初め式、アーティストのコンサート、NHKのど自慢など多様な用途で利用されてきた。また、皆さんの文化発表の場でもある。そのような中で、式典の部分については、ケーブルワンスポーツパークの音響を良くすることで代替ができるのではないかと、一方でホールの機能は北方文化ホールが今あるので、その機能を上げればいいのではないかと考えた。ただ、別の場所で話をすると、それは無理があるのではないかという意見も聞くので、今後ホールをどうするかっていうところは、別途考えていかなければならないと私個人としては思っている。

(参加者)

- ・財源の部分で「公共施設等適正管理促進事業」などの活用はしているのか。
- ・維持するために収益を生むのは難しいので、赤字を補填できない部分もあると思うが、作りっぱなし、建てっぱなしで、あと任せているっていうのは人ごとに聞こえるというか、市側の努力の形跡がどこにもみえない。そういった姿勢が少し納得いかない。

(文化課 井手室長)

- ・ 公共施設等適正管理促進事業、いわゆる公的債というものは当然活用しており、国の予算も確保しながら進めているが、費用が上昇した部分の国庫補助金は確保できていない状況。

(市長)

- ・ 今回、想定よりも事業費が増えたから維持するのは難しいので壊そうという風に見えてしまい、民間の活用など、どうにかして維持できるような努力や工夫が見えない部分があったと思うが、文化施設はお金を稼ぐ施設ではないが、それでも少しでも稼いでいくような工夫をぜひそこは考えてほしいという話は、令和 5 年の長寿命化の方針が出た時から 1 年くらいかけてずっと色々と考えてもらっていた。ただ、今のところ財源を埋めていくところの案は見つかっていないというのが正直なところ。一方で北方文化ホールがあるから大ホールを無くして終わりではいけないと思っていて、大会を目指す方々が本気で挑める場所が必要。今回は、一例として北方文化ホールを挙げたが、ステージが狭いなどの課題があることは聞いているので、今後どうやって行くのかを是非皆さんと考えていきたい。

(参加者)

- ・ 近隣の市町にもホールはあるが、どこにもない素晴らしい施設だと思う。それを取り壊すのは非常にもったいないので、是非なんとか補修をして生かして、今後利用できるようにしていきたい。そして昔オーケストラなどと呼んでいたように、今後いろいろないいものを子どもたちに見せてあげたいというのが我々の願い。
- ・ 補修や維持で多くの予算が必要ではあるが、先ほど出た補助金などを含め、もう一度検討をお願いしたい。
- ・ 文化交流施設というのは、どういうふうを活用し、みんなが集まってこれるのかを念頭に置いて作られていると思う。いろんな話し合いは今後やっていくとは思いますが、大ホールについては、すべてできるかどうか分からないが、当初の予算でできることから優先的にやっていくことが必要だと思う。
- ・ インターネットで、大ホールは全国的にも非常にいい施設ということで紹介されている。我々としては、これまでやってこなかったが、集まりや打ち合わせの中で今後の文化をどうしていこうかという話をしていき、この大ホールをどう生かしていくのか、他の施設の使い勝手をどうしていくのかということと一緒に考えていきたい。

(市長)

- ・ 当初の予算でどの程度のことができるのかは改めて確認したい。
- ・ なかなかこれまで文化というものをどうしていこうかということを実際に一緒に考えていることが我々も不十分だったと思っている。文化のまちづくり構想を作る際にいろんな方の意見は伺ったが、一番文化の担い手である文化団体の皆さんと膝を突き合わせてどうしていこうかということがもっとできたんじゃないかと思っている。遅いかもしれないが、本当に膝を突き合わせて、一緒に考えていきたい。

(参加者)

- ・ 昨年の 12 月に市長が大ホール整備計画を立ち止まって考えると答弁された後に廃止、解体の可能性を全く明言しないまま、急に方針の転換を決めたのはなぜか。
- ・ 近年、周辺市に同規模程度の機能を有する施設が開館しているため、稼働率の低下が見込ま

れるとあるが、こちらはこういった根拠に基づいた見込みなのか。

- ・例として挙げている鹿島市民文化ホールの向かいにはエイブルホールが、SAGA アリーナ向かいには佐賀市文化会館が並んでいる。それぞれの新施設開設以降、もう一方の施設の稼働が低下したというデータがあるのか。
- ・文化・芸術による使用について、専門的な観点で言えば、それぞれの音響設備をどれほど整えたとしても、楽器や歌声、お芝居のセリフなど、生音が大切な公演では、ワンスポや北方文化ホールが大ホールに勝ることはない。
- ・市民団体がホールで開催する前提の公演をワンスポで実施する場合、ステージ組や音響照明、座席の用意などに予算や人手の負担が非常に大きくなるのではないのか。
- ・武雄市の文化芸術の中心地、武雄市文化会館大ホールは、長く市民の誇りであり、宝であったと思う。ホールがなくなるならば体育館を使えばいいという発想は、文化芸術に携わる者としては全く考えられない。
- ・武市文化会館大ホールについて、小ホールで催しがあると大ホールが使えないというのがあったかと思うが、その辺の稼働率との兼ね合いとかは確認されているのか。

(市長)

- ・計画の進め方の方針転換について、12月議会の後、市民会議や、関係の方にご意見を聞いた中で、市民全体として二つの民意があると感じた。一つは文化を大事にしてほしいというものと、一方で将来へ負担を残してはいけないというのもあった。そして、熟慮を重ねて、大ホールは解体するけれども、文化振興の流れは止めない。その手法の一例としてということで、ワンスポや北方文化ホールの機能を強化するというのを、一案として挙げた。この代替施設については、まだ案なので、いろいろと今日もご意見をいただいている中で、本当にワンスポや北方文化ホールを代替施設とする案のままで行くのは難しいんじゃないかというふうに、私も感じている。そういう中で、しっかりとしたホール機能をどう作っていくのかというのは、これから様々な面で話し合いながら考えていきたい。

(文化課 井手室長)

- ・きちんと確認をしたわけではないが、SAGA アリーナでイベントがあっている時には、佐賀市文化会館を利用しないというようなことは聞いたことはある。そういう意味では、SAGA アリーナができたことでの影響は当然あるのかなと思っている。また、令和5年度のホール全体の全国平均稼働率は54.5%という中で、大ホールは31.1%という状況。さらにコンサートなどの興行は4件開催されている。
- ・駐車場の部分や、委託をしているステージ担当の方がいるが、同時に両方の対応ができない、つまり小ホールを使用している場合、大ホールは同時に使わないというようなルールがあることは把握している。

(参加者)

- ・何かはケーブルワンスポーツパークで代替えができるし、音響を問わないものであれば芸能人なんかも呼べると思う。一方で音響や演出にこだわる人はいるので、中ホール程度でいいので、解体後の更地に音響にこだわる立派な建物ができればいいのではないのか。文化連盟の皆さんと一緒に仕事をしているが、だんだん集客もできなくなってきており、年齢が高くなって踊りをやめてしまい、何も芸術に携わる機会がなくなって、見ることもなくなってきて

いる人がいる。もし近くにこういう拠点ができれば、新たに携わる人を呼ぶ起爆剤になると思う。お金がないので解体します。そして対案がこれです。この体育館とこのホールでやりましょう。それではちょっと納得がいかないので、さまざまなパターンでどのくらい金額がかかるのかをしっかりと具体的に提示くださればありがたい。

(市長)

- ・解体した後の跡地はどうするというのは決まっていない。そこについては、話し合いながら決めていきますというところは言っているが、それだけではなく、とにかく分かりやすい形で対案を示していく必要があると思うし、示すにあたっては、今日のこういう場も含めて、皆さんのご意見を聞いた上で、エリアとしてもどうなるのかっていうところも含めて分かりやすく示していきたい。

(参加者)

- ・解体ありきの案しかないような印象を受けるので、残す方向での様々な対案を示してほしい。

(市長)

- ・当初の額でもそんなににかかるのかと驚いた記憶があるが、最低限の機能維持でもこのくらいかかるということだった。実際の内訳は。

(文化課 井手室長)

- ・電気や舞台設備に一番金額がかかっている。また、建物全体で雨漏りがしており、全部が特定できないような状況。やはり50年経っているので、建物もいろんな劣化をしているというところで費用がかかってしまう。

(参加者)

- ・金額の内訳は公表するのは不可能なのか。

(文化課 井手室長)

- ・不可能ではないが、今のところは公表していないという状況。

(市長)

- ・内訳がどうなっているかということも含め、費用が掛からないようにもう少し工夫ができないかをもう1回精査したい。

(参加者)

- ・大ホールの響きは最高。壊さなくて今あってよかったなと思っている。最高のピアノや今作るとなると億単位ではできないような立派な緞帳があるのに解体するのは悲しい。せっかく残っているならそれを生かす方が新しいものを作るよりもずっといい。私たちとしても、子供たちにとってもこれから30年間今の大ホールを残していくことが価値のあることじゃないかと思う。
- ・最近新しくできたホールで、これだけ音響にこだわっているうえに、オーケストラピットやせりなどの舞台装置があるところはない。こんな素晴らしい設備をただ解体というのは、本当に悲しい。
- ・大ホールでの発表会や音楽会を見て本当に誇りを持つことができた。また、舞台に立てたという誇りを持って大人になっていける。こんな素晴らしい施設を壊すのはどうかと思う。
- ・自分たちが大人になったときにお金をかけられると心配してもらっているが、そんなのは

今考えることじゃない。自分たちが大人になった責任を果たすからそんなこと心配しないで、あの素晴らしい大ホールを残して欲しい。

- ・子どもから大人まで武雄市民全員に対するアンケートを取って、それで解体の数多くてどうしようもなかったら諦めるが、アンケート結果もきちっと踏まえて欲しい。
- ・子供たちまでがそこまで考えているということは、我々大人としてはもっと真剣に、この大ホールの問題は考える必要があると思う。また、先ほどの補修の経費についてはもう一度、どのぐらいかかるかを弾き出していただけないか。そしてそれをホームページ等で公開していただいて、本当にこのぐらいかかるからどうしようかっていうことを出してほしい。
- ・大ホールの維持費とかは現実的にお金がかかると思う。この大きさであの音響のホールは、議員の皆さんは、もうちょっと小さくても反響板かなんか置けばコンサートできるんじゃないかぐらいに思っているような印象を受けたが、それは全く違うと思う。この規模のホールは一度なくなったら壊すのにお金がかかり、同じ規模のものを新しく作るぐらいだったら、修繕しながらの方が多分お金がかからないと思う。
- ・文化の場というのは、やる人がいてそれをみんなが座って楽しむという風に捉えられがちだが、実際は伝える方と受け取る方の両方がいて、両方が育つ活動。今回、解体かもしれないという話を聞いて、今まで当たり前とされていて、誰かに任せていた文化運営というものを、これを機会に、大ホールの活用というのにもっとみんなが参加するきっかけになったらいいと思う。
- ・解体が決まったとき、もちろんショックだったが、解体をした後のことが一番気になっていた。先ほどから残した場合と解体した場合で、両方予算とかすべてにおいて、もう一度検討してほしいと話があったが、そうしていただけると、多分どっちになったとしてもみんなが納得していけるのかなと思うので、これからやっていただきたいと思う。
- ・議会で未来の子どもたちに負担をかけないと言われたが、未来の子どもたちのためだからこそ、今何をすべきかということを考えるべきだと思う。また、負担をなくすというのは、お金の面で言われているのか、どこの部分で言われているのか。
- ・子どもの時の大ホールでの活動を通して、その経験があったから武雄で育っていきたく思ったし、武雄に帰って就職がしたいと思っている。未来の子どもたちのためにとにかく言うてくださっているが、子どもの時にできる経験というものがあると思うので、未来の子どもたちのためにというのを逃げ道にしてほしくないと思う。また、私たちが大人になってからの負担を減らすためにという優しさを建前に子どもたちの経験も奪って欲しくない。
- ・12月の話し合いの際にも具体的な数字を出してほしいとお願いしていたので、改めてお願いしたい。その上で解体か残すかのどちらが本当に子どもたちの将来に向かって大事なのかを考えたい。また、こういう機会があったことで大ホールの良さを再認識できた。
- ・今のホールがなくなるとは、子どもたちの感性を磨く、素晴らしい人を育てる場所がなくなってしまう。市長はソフト面でなんとかそれを補うと言われたが、ホールがなくなると、ソフトがどこでどれだけいいのが組めるか。この会場があるからこそ、他所ではできない演奏や経験を子どもたちができて、未来の子どもたちに大きな夢を持たせることができると思う。
- ・大ホールに関してのパブリックコメントを募集されていたと思うが、そのパブリックコメン

トは、我々にフィードバックがあるのか。それとも皆さんから意見をもらったという既成事実として扱うのか。また、意見を受け、こういうことを考えましたというのは出てくるのか。

(文化課 井手室長)

- ・今、内容について精査を行っている段階であるが、最終的には方針も含めホームページで公開させていただく予定。

(参加者)

- ・今は市民の意見が2つに集約されてしまっているように感じているので、これまでの発言を踏まえてどう考えたかということを含めて公開をお願いしたい。
- ・当初、小ホールは壊すが大ホールを残すという前提で説明を受けてきており、その内容でのワークショップにも参加してきた。それが大ホールまで壊すということになると騙された感じ。やはり皆さんから出ているように、国からの補助金等を活用することを前提に金額を精査し、具体的に示してもらいたい。
- ・改修や維持管理にかかる費用の回収（使用料や興行収入）については当然検討されて、人口が減っていく中で集客が見込めず稼働率も上がらないだろうという見立てだと思う。しかし、人口減少はどここの市町でも同じなのに鹿島市などは新しいホールができている。どうして武雄ではできないのか。我々も改修して使用料が上がるのは仕方ないと思うので、行政の方でも努力をしていただき、その上で改修か解体かを考えてもらいたい。

(市長)

- ・皆さんが大ホールに対して期待されていることがいろいろあるなというふうに思った。大ホールは大きくてすべてを包含するようなところだったが、ある人は質の高さ、または広さといったように、大ホールに対する皆さんの様々な思いがあるというのは分かった。
- ・今日いろいろとお話を聞かせていただいた。今日聞いたことは聞いただけで終わりますということのないようにしたい。
- ・今日はハードの話で、ソフトの話は後日ということだが、その部分が本当に文化を愛する皆さんが、さらにどうしていけばいいのかってところを、お任せではなく、一緒になって考えていかなければならないと思っている。今回が一つ大きなきっかけになったのではないかとも思っている。
- ・ハードの部分については、さまざまな面で説明不足があったと思う。そのプロセスが本当に充分だったかということ、そうではないというふうに思っている。先ほど膝つき合わせてという話をしたが、そういう意味で、今回の市長と語る会でいただいた皆さんのご意見は、しっかり自分の中で消化して参考にさせていただきたいし、これで終わりではなく、ぜひ同じようなプロセスを重ねていければなというふうに思っているので、ぜひ引き続きよろしく願いしたい。

(参加者)

- ・次回はソフトの面をテーマに議論していきたい。その際は文化協会に専門職を置くことも検討してほしい。今日はいろいろな意見が出たが、我々の大ホールに対する愛情があつてのこと。これを受け市長なりに検討していただきたい。
- ・大ホールについては特別な問題と認識している。費用等の比較資料を準備していただき、市民の意見を聞き、十分な議論ができる場をこれから設けてほしい。